

提案主題 「教職員の資質向上」に向けた教頭の役割
 サブテーマ ～若手が活躍できる学校組織づくりを通して～
 協議の柱 若手教職員の資質向上に向けた組織的な方策と教頭の役割はどうあればいいか。

提言者 佐伯市立佐伯小学校 村上孔児

1 質 疑

- (1) 運営委員会で4点セットの途中経過などはどのような形でしているのか？
 シートを使った途中経過はできてはいない。本校での現状分析は行事や取り組みを行った時、どうだったかを行事の後にアンケート形式で集約し運営委員会で協議をする。
- (2) 各種主任の連携や職場での人間関係づくりで具体的に効果があったことを教えてほしい？
 自分が主幹教諭だったので、主幹教諭との役割分担ができ、比較的、連携もできている。学年主任との連携はできているが、分掌主任との連携はできていない。分掌主任との連携は主幹教諭がしている。職員室の人間関係づくりは職員室などいろいろな所でよく声をかけるようにしている。

2 協 議

- (1) 運営委員会は学校、市町村で違う。職員会議の前段階の協議や会議が多すぎて子どもに向き合う時間がないなどの意見も出た。若手の育成はまずミドルリーダー、中堅教員の育成からする。ベテランの先生には意識が高くない先生もいるので、モチベーション向上には効果的な声かけや分掌提案者として参加させるなどが必要になる。若手やベテランの組み合わせはよいが、難しい学校もある。
- (2) 若手の育成では若手がいな学校もある。若手育成では一人ひとりの課題を把握していく。授業改善が主だが、若手とベテランを組み合わせることが大切。若手がいなが、10年3地域の教員が入り、ベテランの授業改善になり、意識が変わることもあった。板書をデータ化して見られるようにしている学校もある。教頭のかかわりは現状把握して役割を持たせ、提案の仕方を変えて年配の職員の意識も変える。若手には授業改善や分掌等で提案を任せ、役割をもたした中で育成する。
- (3) 若手の育成については年齢が比較的近い30代後半の先生が指導ができている報告があった。学校によって年齢バランスは違うが基本的にはベテランと若手を組ませて育てる。うまくいっていない学校は若手に困りが生じている。それを管理職等がフォローする。分掌の提案物作成にベテランの先生もアドバイスしている。学校の規模によって学年部や分掌を中心に育てていて、中学校、教科ごと、小学校では学年部ごとに行っていると報告があった。50代後半で指導がきびしい先生に若手に向かわせるのも管理職の役割。分掌での話し合いでできていないことがあればもっとこういうやり方があるとアドバイスを。若手、ベテランともに育てることが管理職の役割。

3 指導助言

資料をもとに指導助言。「キャリアと発達課題・学校マネジメント」「中堅教員の職務」の資料を配付して説明する。詳しくは後半の時間に話されるが、年齢に応じた身につけなければならないキャリア課題等の説明をされ、学校は組織体だから教頭は旗をかかげて役割と分担をはっきりとさせることを話される。